



拝殿を清掃する参加者たち

神社清掃奉仕30回

登寿HD 過去最多521人参加

宮坂建設工業を中核とする登寿ホールディングス（HD）、帯広市、宮坂寿文（社長）は9日、市内の帯廣神社と十勝護国神社で清掃活動を行った。30回目の節目を迎える今年はグループ8社から過去最多の521人が参加。建設会社の持つ技術を生かし、落ち葉や倒木を片付けた。

毎年5月に実施する清掃活動は、社会貢献の一環として1995年にスタート。今年も、宮坂建設の札幌支社からも約150人が参加した。高所作業車を持ち込み、普段の清掃では手が届かない施設屋根の汚れも落とした。春先の強風で倒木や落枝が増えたこともあり、1時間ほどで約3トの落ち葉や枝を回収した。

今春入社した札幌支社建築部の白土瑠一さん（22）は「マンガ『銀の匙』のファンで、作中に登場する帯廣神社での活動を楽しみにしていた。地元の方や観光客に気持ちよく参拝してもらえたら」と笑顔を見せた。

清掃後は、帯廣神社の拝殿前に参加者一同が並び、工事の安全を祈願した。宮坂社長は「インフラを預かっている産業として、地域の皆さんと向き合う活動を大切にしている。帯広はもちろん、拠点のある札幌や函館でもこうした活動を続けていきたい」と話した。

（月森七海）